

平成 29 年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力」と「豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、将来を生きるための力と、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、豊かな情操を育むとともに確かな学力を育成する。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりが持つ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

2. 中期的目標

「確かな学力」を身に付け「豊かな情操」を育むため、年度当初に示す学校経営方針に沿って教職員が取り組みを進め、生徒の夢や希望の実現に努めることで、生徒には「来て良かった」、保護者には「行かせて良かった」、学校や塾の先生には、「勤めて良かった」と評価してもらえる教育を目指す。

(1) 学校運営

- ①大学入試改革や教育課程改訂への対応
- ②安全対策
- ③設定目標自己診断による学校改革への意欲の向上

(2) 教育実践の充実

①教科指導

- ・公開研究授業の実施
- ・授業方法・授業内容の工夫改善
- ・教科会等での自主研修の推進
- ・中学・高校が連動した指導
- ・大学入試制度改革・学習指導要領改訂に伴う研究

②生徒指導

- ・挨拶運動の推進
- ・積極的な生徒指導の推進
- ・問題事象のない学校を目指す
- ・情報端末機器の適正な使用のための指導

<p>③進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路学習の充実 ・退学の防止 <p>④人権教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識の醸成 ・人権教育にかかる授業の工夫改善 <p>⑤情操教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・宗教の時間を通した心豊かな人間の育成 <p>⑥家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会等の開催 ・ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行 <p>⑦広報・募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の魅力や特色の発信 ・教職員一丸となった広報活動 <p>(3) 意識改革と資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の連携 ・「生徒による授業評価アンケート」等の活用 ・管理職による教職員ヒアリングの実施 ・教科会、各部会、学年会等の定期開催 ・企画力の育成 <p>(4) 学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の自主活動の推進 ・部活動の活性化

【自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見	学校関係者評価委員会での意見交換
<p>本年度は、耐震化された体育館の天井、備蓄倉庫、プロジェクター設置状況、自習室等の学校評議員視察を行い、その後、評価委員会を開催し意見交換をした。評価委員からの意見として、本校で毎年実施している各種のアンケート結果から、全体として取り組みの成果は現れているが、項目ごとをみると課題もあり、対策が必要である。例えば、授業で学んだことが教科の興味につなが</p>	<p>校内施設の視察が実施され、防災のための生活用品等の備蓄や、学校の教育設備が充実してきたことで安心したとの意見が多くあった。その後、評価委員会が開催され、各種のアンケート結果を中心に意見交換を行った。特に改善を求められたのは、生徒が積極的に発言できる授業環境と、現在、研究実践を行っているアクティブラーニングの積極的な推進についてであった。また、学年が上</p>

<p>っていないことや、中学生においては授業への集中力が低いことも課題となっている。また、これまで大切にしてきた朝の小テスト・予習・復習の実施の重要性について再確認することで、基礎学力を定着させ、応用力の向上につなげていくことが大切。さらに、長年教職員間で実施してきた公開授業により、講義調の授業は姿を消しているが、授業に意欲を持たせ、集中した授業となるような授業の工夫改善、特にアクティブラーニングなど用いて主体的・対話的で深い学びの授業にも取り組んでほしい。そのため教材研究の時間の確保、職場を離れての研修の機会等が大切であることの見解があった。</p>	<p>がるほど増えている、生徒の英語に対する苦手意識の払拭と、将来を見据えた英語教育の推進、学習意欲の向上にも尽力を願いたいとの発言があった。</p> <p>様々なアンケート調査結果からは、先生と生徒の関係は良好で、生徒が授業に真剣に取り組んでいる様子が感じられるが、この評価結果に甘んじることなく、理解が十分でない生徒にもしっかり目配りをして指導してほしいこと、また、今後もこの評価委員会の場でも出された保護者意見を少しでも学校の教育に反映してほしいとの要望が出された。評価委員会での意見を加え、本校の学校評価報告として公表することを確認し、閉会した。</p>
---	---

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学 校 運 営	ア、大学入試改革・学習指導要領改訂への対応	ア、大学入試改革・学習指導要領改訂に伴う対策委員会を新たに設置し、今後の対応について検討・報告する。	ア、外部研修会等への参加。対策委員会を学期1回程度開催し、研究成果を校内で報告する。	ア、スコア型英語4技能検定を導入した。今後も研究を深めていく。
	イ、安全対策	イ、警察署・消防署等から講師を招き、交通安全指導・防災訓練を実施し、生徒の安全を確保する。また、地震対策のため備蓄倉庫を整備する。	イ、交通安全指導・防災訓練を年1回以上実施する。備蓄倉庫の整備し、生徒分の食料・生活用品を備蓄する。	イ、10/3交通安全指導、9/1防災訓練を実施。備蓄倉庫の整備完了。引き続き次年度も実施する。
	ウ「設定目標自己診断」による学校改革への意欲の向上	ウ、「設定目標自己診断」を実施し、教職員の学校教育への改善意欲を向上させる。	ウ、管理職による全教職員へのヒアリングを年1回以上実施し、各教職員の設定した目標や実施状況を把握し、指導・助言する。	ウ、例年通り、自己診断を実施し、全教職員から実施状況についてヒアリングした。次年度も同様に実施し学校経営に生かしていく。
教 育 実 践 の 充 実	<教科指導> ア、公開研究授業の実施	ア、教員の授業力や指導力の向上のため、定期的に公開研究授業を実施する。	ア、中学・高校別に教科を指定して、年5回以上研究授業を実施する。年に一度は外部講師を招聘し、指導を受ける。	ア、中学校2回、高校7回実施した。今年度は中学で道徳の研究授業も実施した。来年度も公開研究授業を続ける。

教 育 実 践 の 充 実	イ、授業方法・授業内容の工夫改善	イ、教員の授業力の向上のため、研究授業に取り組む。	イ、日々の授業に対する生徒の満足度評価が80%以上にする。	イ、生徒が授業で分かる喜びを感じるのが76.3%となっている。さらに指導力の向上に努める。
	ウ、教科会等での自主研修の推進	ウ、各教科で設定した研究テーマについて実践交流をする。	ウ、教科会等で年1回以上の研修報告とともに、年度当初に設定したテーマについて協議する。	ウ、各教科で前年度の総括を踏まえたテーマを設定し、実践した。来年度も同様に研究を続ける。
	エ、中学・高校が連動した指導	エ、教科指導・生徒指導面において、中学・高校間で段差のない指導を行う。	エ各教科のカリキュラムや生徒指導などについて中学・高校連絡会を開催する。また、中学生に高校での学習や生活、進路ついて学ばせる。	エ、教務部では学習内容について、生徒指導部では指導内容について、担当者間の連携ができた。中学での進路学習も進み、来年度もさらに推進する。
	オ、大学入試制度改革・学習指導要領改訂に伴う研究	オ、職員会議等で大学入試改革や学習指導要領改訂について研修し、内容について理解を深める。	オ、研修会を年2回以上開催し、対応策等について研究を深める。	オ、各大学の入試改革に関する研修会に参加し、教科指導への反映に努めた。今後も研究を継続する。
	<生徒指導>			
	ア、挨拶運動の推進	ア、生徒会活動や部活動の活性化を図り、「挨拶がこだまする学校」の実践に努める。	ア、生徒の9割以上が挨拶していると感じる状況にする。	ア、9割以上の生徒が挨拶しているという実感はあるが、さらに自主的に挨拶できるよう進める。
	イ、積極的な生徒指導の推進	イ、事後指導だけでなく事前指導に重点を置き、生徒との対話を大切にした信頼関係の構築に努める。	イ、教職員が登下校や授業外でも積極的に声がけをし、人間関係作りに努める。風紀検査での違反者が全校生徒の5%未満にする。	イ、教職員の信頼関係構築を基本として積極的に働きかける。風紀検査違反は5%未満だが学級により差がある。今後も指導は継続していく。

	ウ、問題事象ない学校を目指す	ウ、教員と生徒との望ましい人間関係を構築し、問題事象の減少に努める。	ウ、生徒との信頼関係構築のため、学期ごとの個人懇談を実施する。懲戒事案が5件以内となるようにする。	ウ、学期毎の懇談は確実に実施した。懲戒数は3件であった。来年度も生徒との望ましい関係の構築に努める。
	エ、情報端末機器の適正な使用のための指導	エ、入学時や生徒集会等さまざまな機会にとらえて指導するとともに、家庭とも連携し、問題事象の減少に努める。	エ、生徒を対象に、年2回以上の指導と、新入生保護者を対象とした研修会を開催する。	エ、現在はスマホの校内持込を禁止しているが、引き続き家庭と連携して、適正な利用をさせる。
教 育 実 践 の 充 実	<進路指導> ア、進路学習の充実	ア、生徒一人ひとりの特性や能力、個性等を大切に、将来を見据えた進路希望の実現のための指導を行う。	ア、進路 LHR の資料作成をする。生徒・保護者を対象に入試システム・進路状況等についての研修会を開催する。現役合格を目指し、進学率を90%以上にする。	ア、大学・短大・専門学校への進学率は86%となり昨年より向上した。来年度も一人ひとりの希望や適性に応じた進路指導を行う。
	イ、退学の防止	イ、「入学した生徒を卒業まで」を合い言葉に、保護者と連携し一人ひとりに寄り添った指導の徹底を図る。	イ、学期に2回以上の個人懇談を実施し、生徒との信頼関係を構築する。退学率を1%未満にする。	イ、面談は予定以上に実施できた。退学率は目標を下回っているが、更なる減少に努める。
	<人権教育> ア、人権意識の醸成	ア、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」のない学校づくりに努める。	ア、「いじめゼロ」を目指す。	ア、いじめ件数は0件であったが、生徒が安全で安心できる学校生活になるようさらに努める。
	イ、人権教育にかかる授業の工夫改善	イ、生徒とともに考える学習形態・参加型学習の研究・実践に努める。他校の実践に学ぶ。	イ、人権教育推進委員会を毎月1回開催し、資料や指導方法・指導内容について研究・検討する。私学人研幹事校として月一回の例会に参画する。	イ、委員会を月2回開催。私学人研夏期研で報告した部落問題学習を校内で伝達講習、また、特別支援教育コーディネーターからも伝達講習をした。今後も研修内

<p style="text-align: center;">教 育 実 践 の 充 実</p>	<p><情操教育> ア、道徳教育の充 実</p> <p>イ、宗教の時間を 通した心豊かな 人間の育成</p> <p><家庭との連携> ア、保護者会等の 開催</p> <p>イ、ホームページ の充実、学校通 信・中学通信等 の発行</p> <p><広報・募集活動> ア、学校の魅力や 特色の発信</p> <p>イ、教職員一丸と なった広報活 動</p>	<p>ア、人間としての生き方を学び、 それを学校生活に生かす</p> <p>イ、授業について研究を深めると 共に、指導内容の共通理解を深 める。</p> <p>ア、各種説明会や保護者会を有効 活用し、保護者との連携を図 る。</p> <p>イ、ホームページの随時更新と学 校新聞・中学新聞等の定期発行 を通して、学校の情報を積極的 に発信する。</p> <p>ア、学校案内・ホームページを活 用し、生徒の出身学校や塾等を 訪問し、学校紹介をするととも に意見交換を通して学校の特 色等を発信する。</p> <p>イ、入試広報部と中学・高校の教 員が連携し、本校の取り組みや 学校の魅力について発信する。</p>	<p>ア、道徳・情操教育委員会を 学期ごとに開催し、年間 計画を樹立する。道徳の 時間の授業研究を行う。</p> <p>イ、宗教担当者会議を学期 に1度開催し、指導内容 の連絡調整を図る。</p> <p>ア、各学級において保護者 会を年間2回以上開催 し、連携を図る。</p> <p>イ、各行事、トピックス等を 随時更新してホームペー ジに載せる。金光八尾新 聞年2回、中学新聞・保 健室便りなど毎月1回、 定期的に発行する。</p> <p>ア、学校の特色・魅力や進路 実績を発信することで、 中学（70人）、高校（240 人）の定員を確保する。</p> <p>イ、オープンスクール・学校 説明会・私学展等に、広報 部職員と教員が参加し、 受験生や保護者に対して 本校の魅力を発信する。</p>	<p>容を職員会議等で伝 達する。</p> <p>ア、12月に新しく教科 となる道徳の研究授 業と研究協議を行っ た。今度も組み みを継続する。</p> <p>イ、予定通り担当者会 議を実施した。来年 度も生徒が心豊かな 学校生活を送れるよ う取り組む。</p> <p>ア、予定回数の保護者 会を実施した。今後 も保護者との連携に 努める。</p> <p>イ、予定通り進めた。 来年度も行事などタ イムリーに学校の情 報を発信する。 また、来年度から中 学新聞をカラー版に する。</p> <p>ア、年々定員確保が難 しくなっている。学 校の魅力が受験者に 届くよう、さらに工 夫する。</p> <p>イ、アンケートでは一 定の評価が得られて いるが、学校まで足 を運んでもらえる仕 掛けを再検討する。</p>
--	---	---	---	---

<p>意識改革と資質向上</p>	<p>ア、教職員間の連携</p> <p>イ、「生徒による自己授業評価アンケート」等の活用</p> <p>ウ、管理職による教職員ヒアリングの実施</p> <p>エ、教科会、各部会、学年会等の定期開催</p> <p>オ、企画力の育成</p>	<p>ア、報告・連絡（連携）・相談を徹底し、組織力の向上を図る。</p> <p>イ、「生徒による授業アンケート」により授業の実態を把握する。教科会等で調査結果を分析し、各教員が授業に生かす。</p> <p>ウ、管理職とのヒアリングを通して学校運営等について教職員と意見交換する。</p> <p>エ、教科会、部会、学年会を定期開催し、情報交換や、受講した研修内容等について報告する。</p> <p>オ、学校・学年行事等の実施後に、意見や改善点を集約し、行事内容のさらなる充実を図る。外部での研修を通して、学校運営への参画意欲を向上させる。</p>	<p>ア、中学部会・高校各学年会を毎週 1 回、定例的に開催する。管理職と各部長で構成する運営委員会の充実を図る</p> <p>イ、各教職員の授業に対する生徒の肯定的評価が 80%以上獲得できるようにする。</p> <p>ウ、管理職と教職員が、年 1 回以上学校運営等について意見交換する。</p> <p>エ、中学部会・各学年会を毎週開催するとともに、教科会・部会を年 3 回以上開催し、意見交換をする。</p> <p>オ、行事ごとに意見集約を行うとともに、教員の各行事への改善意欲が 90%以上となるようにする。外部での研修参加者数が延べ 30 人以上になるよう積極的に参加を促す。</p>	<p>ア、予定回数は実施できたが、次年度はさらに学校運営についての協議を増やす。</p> <p>イ、80%以下の教員もいるが、助言することで変化の兆しがあった。来年度も引き続き実施する。</p> <p>ウ、予定通り実施した。次年度も同様に行う。</p> <p>エ、予定通り実施した。今後も意見交換を通して連携を図っていく。</p> <p>オ、30 人以上が参加した。今後は研修内容が進学関係に偏ることなく、授業力や教員力の向上についての研修参加を促す。</p>
<p>学校行事</p>	<p>ア、生徒会の自主活動の推進</p> <p>イ、部活動の活性化</p>	<p>ア、生徒会や各クラブが主体性を持って、文化祭、挨拶運動、奉仕活動等を推進できるよう支援する。</p> <p>イ、部活動を通して生徒の自主的な活動を推進させる。</p>	<p>ア、生徒の自主活動に対する肯定的評価が 80%以上となる。</p> <p>イ、部活動への入部率が中学で 80%以上、高校で 45%以上を目指す。</p>	<p>ア、生徒の 84%が主体的に活動していると評価している。今後さらに主体的な活動を促していく。</p> <p>イ、中学校が 82%、高校が 43%となった。有意義な高校生活となるよう部活動を推奨していく。</p>